

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年3月10日

事業所名 帯広市幼児ことばの教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4人	0人	・適切な数の指導室があり、その時間に使用する部屋については、子供と職員の中で決めながら、調整しています。	・今後も左記を継続します。
	②	職員の配置数は適切である	0人	4人	・今年度は、言語聴覚士の資格を持った職員が新たに1名着任し4名での指導体制が取れるところでしたが、職員1名が産休と育児休業を取得したことで、代替えの求人を行ったものの希望者がいなく、結局3名の指導員で乗り切ることになりました。指導時間の確保なども難しかった時期が続きましたが、どうにか乗り切ることができました。次年度は、安定した指導体制が組めるよう努めたいと思っております。	・年度途中で退職者が出たことで、お子さんのもとより保護者の方に対し、不安を与えてしまう結果となってしまいました。また職員も1人区以上の仕事をする事になり、指導に専念することや、十分な研修が受けられなくなってしまったことも確かです。再度、事務分掌の整理、また事業所以外の仕事の見直しなど、お子さんの指導・支援に専念できる体制が取れるよう、検討をしていきたいと思います。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4人	0人	・各指導室の前室にある小さな段差については、各担当者が、お子さんと保護者の方に注意をお伝えしながら、危険の無いように注意を払っています。	・今後も左記を継続します。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4人	0人	・保護者から観察室のモニターテレビが壊れて使えないことの指摘がありましたが、モニターテレビ自体の故障ではなく、指導室に設置されているテレビカメラの故障であり、経年劣化によるものとの事でした。設置は帯広市であるため、申出はしていますが、金額的にも高額なものであるため、今年度の取り換えにはならないとの回答は受けています。従って、モニターテレビからは音声は入りますので、それを聞いてもらいながら、観察窓からお子さんの様子を観察してもらう形態で、当面对応をお願いしたいと思います。	・たまたま1カ所の観察室の故障ですが、業者の話ですと、他の指導室にも同時期に同様のカメラが取り付けられているため、経年劣化は避けられず時期を大きく違えず故障するものと考えてほしいと言われています。計画的に取り換えが進められるように、帯広市に申出をしていきたいと思っております。 ・今年度は「新型コロナウイルス感染症対策徹底支援事業」として交付金が支給されたことから、各指導室、待合室、職員室に、空気清浄機を購入し設置いたしました。新型コロナウイルスを含むウィルス対策や、塵や埃などのアレルギーを持つお子さんに対する対策などからも、整備の必要性を感じておりましたので、交付金で購入できたことは本当にありがたいことと思っております。

業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4人	0人	・個別支援会議や中間評価会議、ことばの検査後の判断会議などの中で、必ず職員全員で行っています。	・今後も職員が共通認識持つ中で、お子さんと保護者の指導に当たられるよう、PDCA サイクルを意識して進めていきます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4人	0人	・指摘のある点については、真摯に受け止め、取り組み実施しています。	・昨年度の評価に対しては、事業所として、改善点や指摘に対しては、早急に取り組みました。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4人	0人	・自己評価については、教室だよりの発行時に、「保護者等からの事業所評価の集計結果」と「事業所における自己評価結果」を添付し、保護者や関係機関に配布するとともに、今年度から社会福祉協議会のホームページにも掲載します。	・昨年、社会福祉協議会のホームページの「幼児ことばの教室」部分を改定いたしましたので、今年度分と昨年度分の2年間の「自己評価」を掲載します。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0人	4人	・第三者による外部評価は行っていないませんが、法人監査が年4回行われる中で、事業報告等を行い指摘などを受けた箇所についてはすぐに修正を行っています。	・第三者の外部評価がどのようなものなのか、研修を行いながら、今後の業務改善に繋がられるよう努力して行きたいと思っています。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4人	0人	・年間研修計画を作成し、定期的に研修を行っています。また各種研修会の参加も、出来るだけ参加できるようにしています。	・今年度は新型コロナウイルス感染防止の影響で、外部で行われる研修会への参加は控えました。研修は職員の資質向上の点では、欠かすことの出来ないものと思っており、研修の機会を多く確保し、直接参加が難しい場合は、オンライン研修などの活用を考えていきたいと思っています。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4人	0人	・指導開始前に、来所相談、ことば検査などを行っており、その資料を基に事業所内において判断会議を実施し、お子さんの状況把握、原因の推定、今後の指導の方向性などを、職員全員で行っています。	・判断会議は、お子さんの個別支援計画に関わる大事な会議となるので、今後もその時間をきちっと確保しながら実施していきたいと思っています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0人	4人	・ことばに特化した内容になるので、標準化したものではなく独自のものを使用しています。	・標準化されているものは使いませんが、40年以上の歴史の中で使われてきているアセスメントツールを、その時代に合わせながら変更し使用していましたが、子どもの適応行動の状況を図る上では、特に意問題なく使用できています。

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4人	0人	・児童発達支援ガイドラインを参考に、当事業所のお子さんに必要な項目を選択し、具体的な個別支援計画書を作成しています。	・お子さんの成長に合わせながら見直しを行い、その都度、その都度お子さんの状況に合わせた個別支援計画書を提示させてもらっています。今後も、保護者に分かりやすい内容や提示の仕方などに工夫を重ね、提示していきたいと思います。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4人	0人	・個別支援会議や中間評価会議などの中で、計画に沿った指導や支援になっているかを、職員全員で話し合い、必要な修正を行っています。	・個別指導のため支援計画に基づき、個々の職員が指導・支援に当たりますが、すべてを一人の職員に任せるとはせず、職員全員の共通理解の基に、必要な指導・支援が行われるよう話し合います。今後もそれぞれの会議での意見を大事にしながら、指導・支援を進めていきたいと思っています。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4人	0人	・個別指導のためチームでの立案は行うことはありませんが、職員同士での指導・支援の在り方など話し合いながら、自分の指導・支援に生かしています。	・会議の中で話し合う場合もありますが、職員同士指導・支援の前後で、話題を出しながら話合うことも大事な時間と考えています。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4人	0人	・各担当者の知識やアイデアに基づき、お子さんが魅力を感じ、飽きないような工夫を行っています。	・自分で実際にやってみて楽しかったことや、そのお子さんの反応など、毎回の指導の合間に出される、ちょっとした話題が、指導・支援のアイデアに繋がることが多くあります。会議の中で出される話題より、取り組みやすいこともあり、大事にしていきたいと思っています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	4人	0人	・事業所の中では、個別指導しか行っていないので、お子さんが所属している保育所や幼稚園と連携をさせてもらいながら、個別支援計画を立てています。	・少なくとも、年2回は保育所や幼稚園に訪問させていただき、集団での様子を参考にさせてもらい、また担任からお話もお聞きしながら、個別支援計画の立案、修正などを行っていくようにしています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4人	0人	・支援開始前には、朝の打ち合わせを行い、その日の職員の同行や、通室してくるお子さんの人数、所属訪問先などについての確認を行っています。個別指導なのでその内容まで打ち合わせには出すことはありません。	・今後も左記を継続します。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4人	0人	・個別指導のため、他の職員と指導後毎回の振り返りは行っていませんが、必要に応じて気づきや支援の方法などについて話題提供があり、話し合うことはあります。	・個別指導のため、すべてのケースについて指導・支援後に振り返りを行えるわけではありませんが、振り返りに必要なケースの相談は、その都度話題にするなどして、職員の困り感に応じられる体制を整備していきます。

	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4人	0人	・日課表の中で、指導終了後、次の指導ケースが来るまでの間、記録を書き、録音を聞き、保護者などに連絡を取るなどができるように、30分間時間を設けています。	・個別指導のため、個々の指導記録が用意されており、毎回指導記録を書くことになっています。前回行った指導・支援の記録を見ることにより、今日すべき指導が分かるので、時間を取ってでも記録きちんとしておくことが大事だと思っています。
	⑲	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4人	0人	・個別支援計画に対して中間評価を行い、個別支援計画の見直しを行っています。	・年間行事計画の中で、個別支援計画会議や中間評価会議の日程を組みながらすすめることは大切であり、今後も継続していきます。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	0人	4人	・セルフプランのため相談支援事業所とのかかわりはありませんが、1名だけ相談支援事業所を活用しており、当教室での指導の見学や指導の内容についての話を聞いて業いかれました。	・相談支援事業所がコーディネイトをするといったことは難しいと思いますが、情報の共有とか、当教室では見切れていないことの指摘などは、お子さんの今後の指導に役立つことだと思っています。
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4人	0人	・事業所が入っている建物自体が保健福祉センターであるため、子育て支援課や保健師さんのいる健康推進課とのつながりは常にあり、連絡、連携を取らせていただいています。	・今後も左記を継続します。
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	—	—		
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	—	—		
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	—	—		
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4人	0人	・3月末に新1年生になるお子さんの言語通級指導教室や特別支援学級に対する引き継ぎを行っています。	・事業所になる以前から、小学校への引き継ぎは行っておりました。引き継ぎに関しては、保護者の同意を得ながら、今までかかわって来たお子さんの情報を小学校に提供し、必要な配慮をお願いしています。
	㉖	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0人	4人	・他の事業所との並行通園は行っていませんので、特に連携はありませんが、病院から助言などたまにあります。	・専門機関との連携は必要だと考えておりますので、必要に応じ、助言や研修を受けられるような体制づくりに、配慮していきたいと思っています。

関係機関や保護者との連携	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4人	0人	・全員の子どもが、保育所や幼稚園を活用しているため、事業所として交流の場は設けていません。従って関係機関訪問を行いながら、集団での様子の見学、また担任の先生と情報共有を図り、指導に生かしています。	・今後も左記を継続します。
	㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4人	0人	・平日の午前中に開催される場合は参加が難しいのですが、土日開催の研修会には参加しています。	・今後も左記を継続します。
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4人	0人	・指導後、毎回保護者の方との時間を設けてあり、その日の指導の状況や家庭での様子などをお聞きしながら、共通認識を持つよう努力しています。	・今後も左記を継続します。
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4人	0人	・個別指導の中で、同室しながら保護者のかかわり方などについて話し合ったり、一緒にかかわったりはしていますが、ペアレント・トレーニングとしては特に行っていません。	・家庭支援の必要があるお子さんに関しては、保護者の方と話し合いながら、実施する必要はあると思っています。 ・今後も左記を継続します。
保護者への説明責任	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4人	0人	・利用契約を結ぶときに、重要事項説明書の説明を行い、保護者からの質問には丁寧に答えています。	・今後も分かりやすく、丁寧な説明に心掛けていきます。
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4人	0人	・少なくとも年2回は個別支援計画書を作成し、保護者に説明後同意を頂いております。	・今後も左記を継続します。
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4人	0人	・毎回の指導後、保護者の方と話す時間を設けています。その時間を使いながら、保護者の相談に応じています。	・今後も、保護者の方の相談には、丁寧に対応し、必要な助言を提供できる研鑽に努めます。
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0人	4人	・当事業所の父母会はありません。必要を申し出られた場合は、既存の「帯広地区ことばを育てる親の会」の入会や研修会の案内を行っています。	・今後保護者の方から、父母会の設立などの要望がありましたら、前向きに検討をしていきたいと思っております。

保護者への説明責任	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4人	0人	・担当者が常に対応できるようにしています。担当者の対応では難しい場合には、児童発達管理責任者が対応するなど適切に対応できるように心掛けています。	・今後も、指導時間内での相談が可能な場合は、担当者が対応するようにしていきますが、時間内では相談しきれないときや、担当者の対応では難しい時には、時間を別にとって対応したり、児童発達管理責任者が対応するなど、必要な対応を適切に行きたいと思います。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4人	0人	・教室だよりを発行し、行事予定や学習資料、指導のひとこまなどの内容で掲載し、保護者や保育所・幼稚園などの所属にも、事業所の理解を図っています。	・今後も左記を継続します。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4人	0人	・所属訪問や引き継ぎなどで個人情報に当たる内容のやり取りがありますが、保護者から「個人情報使用同意書」を頂いており、その範囲の中での情報交換を行っています。また極力口頭でも保護者の方にお知らせし、その都度同意を頂いております。	・今後も、個人情報の取扱いに関しては、十分注意しながら取り扱うこと、またその都度、保護者にはきちっと確認を頂きながら進めていきたいと思っています。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4人	0人	・お子さんや保護者の方に伝わりやすいように、丁寧に伝えるように心掛けています。	・今後も左記を継続します。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4人	0人	・事業所としての行事は特に設けていませんが、社会福祉協議会の行事である「社協フェスタ」「赤い羽根共同募金」などの行事の中で、様々な方との交流を通し、事業所の理解を図る場となっています。	・今後も左記を継続します。
	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4人	0人	・大枠の内容は、重要事項説明書の中での説明してきました。また感染予防に関しては、教室だよりの中での周知したり、また今回の新型コロナウイルス感染予防に関しては、別紙用紙にて必要事項を記載し配付するなどして、保護者の方に説明とお知らせを行っています。	・各種対応マニュアルは、事業所開設と同時に整備し、待合室にも閲覧できるようにしました。また新規契約を取り交わす際に、重要事項説明書の説明の中で説明も行ってきましたが、口頭説明では説明しきれないところがあること、また発生を想定した訓練に関しては実施が中々出来ていないのが現実です。他事業所の対応なども参考の上、訓練の実施や、また口頭説明だけではなく、各種対応マニュアルを、簡略化して理解しやすいものを作成し配布するなど、内容整備に取り組んでいきたいと思っています。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4人	0人	・年2回ある、帯広市保健福祉センター内の避難訓練には、職員が参加し、館内の状況等を把握し、避難、誘導などについての訓練を	・帯広市保健福祉センターの訓練は16:00以降の時間で行われるため、通室児とその保護者の参加は出来ない状況です。従って避難訓練の実施日のお知らせや、訓練での様子などを教室だよりでお知らせ

非常時等の対応				受けています。また、非難経路図を作成し廊下に掲示し、目で見ても確認がし易いようにしました。	するような工夫を行うとともに、少なくとも1度はお子さんと保護者に避難経路をたどってみるといった工夫は必要だと思っています。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4人	0人	・来所相談、事前アンケート、ことばの検査の面接などの中で、お子さんの状況について確認をさせていただいています。	・今後も左記を継続します。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4人	0人	・食物の提供は行っていませんが、上記同様に、食物アレルギーなどについて確認はとらせてもらっています。	・今後も左記を継続します。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	0人	4人	・ヒヤリハットにかかわる内容は、すぐに職員間で共有し対処するようにはしてきましたが、今年度は特出するような事案はありませんでした。	・今年度もヒヤリハットに関しての事案は特にありませんでしたが、今後も注意を怠ることなく指導・支援に当たらなければならないことは基より、必要に応じて「ヒヤリハット集」の作成も考えていきたいと思っています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4人	0人	・新型コロナウイルス感染防止のため、今年度は研修会の参加は控えめました。	・児童に関する虐待の研修は少なく、老人や障害者の虐待等の研修などを活用させもらいながら、研修を行いたいと思います。また新型コロナウイルス感染防止なども加味しながら、オンライン研修などの参加も積極的に行っていけるよう対応していきたいと思っています。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	0人	4人	・身体拘束を行うような場面はありません。	・今後も身体拘束を行うような場面はありません。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。